

FUJI OIL GROUP 2007

第79期 中間事業報告書 平成18年4月1日から平成18年9月30日まで

健康な暮らしを生み出す「食」を創造し 世界市場で活躍する開発型グローバル企業を目指しています。

不二製油グループは「安全・品質・環境」を経営の前提として、様々な機能をもつ食品素材や、可能性を秘めた大豆たん白など、多彩な製品を世界市場へ提供しています。ニーズに応える製品づくりはもちろんのこと、新しいニーズを喚起させる新製品開発も積極的に推進し、「ニッチ・スペシャル・グローバル オンリーワン」の開発型グローバル企業を目指して、健康で豊かな生活に貢献できる「食」の創造を追求してまいります。



ごあいさつ

株主の皆様には日頃より格別のご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

当社の第79期中間期(平成18年4月1日から平成18年9月30日まで)の事業概況をご報告させていただくにあたり、ひと言ご挨拶申し上げます。

当中間期の食品業界は、消費の伸び悩み、企業間競争の激化、原材料価格やエネルギーコストの高止まりなど、厳しい市場環境でした。

このような企業環境下、当社グループは中期経営計画「INNOVATE07」の基本方針である「創造と改革による企業価値向上の実現」にむけ、「三新開発(新製品・新生産技術・新市場)」「コストダウン(1Billion(Yen) Recover Project)」「提案営業による拡販」に鋭意努力してまいりました。連結売上高は過去最高を記録したものの、原価の上昇、主に減価償却の増加による経費の増加を補うには至らず、経常利益では対前年同期比約28%の減益となりました。

事業別では油脂事業のチョコレート用油脂、製菓・製パン素材事業の素材チョコレートは伸長しました。しかし、大豆たん白事業においては、大豆イソフラボンの過剰摂取問題の報道等が影響したこともあり、特に豆乳の販売が落ち込みました。

重点事業として収益性の向上を図っております米国

油脂事業、大豆たん白食品事業は、当中間期は今までの取組みが奏功し、販売数量の増加や生産性の向上により収益が改善しております。

下期においても厳しい企業環境が予想されますが、当社グループ独自の製品群(おいしさ維持機能シリーズなど)の優位性による拡販を図る一方、大豆たん白事業の収益性改善により、一層取り組んでまいります。

当社グループは「食」の創造を通して、健康で豊かな生活に貢献します」を企業理念に、当社グループのあるべき姿「ニッチ・スペシャル・グローバル オンリーワン」を目指し開発型グローバル企業として成長してまいります。

株主の皆様におかれましては、今後ともより一層のご理解・ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成18年12月

代表取締役社長 浅原 和人



大豆の可能性を追求し健康な毎日を支える企業でありたいと願っています。

「畑の肉」といわれるように、大豆は良質のたん白質をバランスよく含んでいます。

不二製油グループでは、創業時から注目していた原材料であり、長年にわたって研究に取り組み、

様々な効用を生かした製品づくりを進めてきました。

今回は特集として、私たちの健康に役立つ大豆の働きをご紹介します。

体内合成できない9種類の必須アミノ酸をもつ大豆

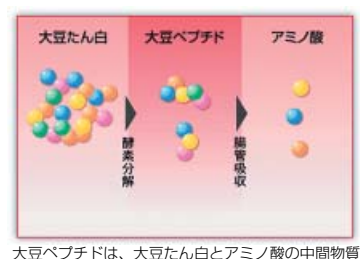
私たちの体にとって、たん白質はとても重要な栄養素です。十分に摂取できていないと、体の様々な部分で機能不全を引き起こします。たん白質は、動物性と植物性に分かれており、一般に体内で合成できない必須アミノ酸を多く含んでいるのが動物性だといわれています。では、いま有力なたん白質源として大豆が注目されているのはなぜでしょうか。理由は二つあります。一つは、大豆のたん白質には、体内合成ができない9種類の必須アミノ酸を含んでいるからです。「畑の肉」として昔から重宝されてきたのもうなずけます。もう一つは、たん白質は、動脈硬化の原因の一つである、脂肪や炭水化物の過剰摂取により生成された悪玉コレステロールや総コレステロール濃度を低下させる働き、つまり血管をきれいにする働きがあります。

この大豆たん白質の機能が、健康維持と老化防止・成人病予防に役立つパワーの秘密なのです。



アミノ酸を体内に効率よく吸収させる大豆ペプチド

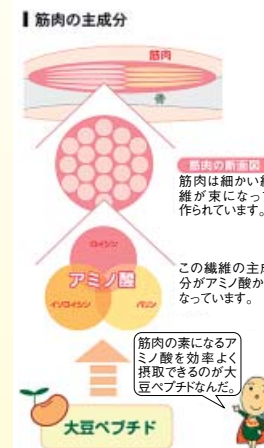
当社大豆たん白事業で特に力を注いでいるのが、大豆ペプチド製品です。ペプチドとは、アミノ酸が数個結合したもので、体内への吸収が早い特徴があります。食事から摂取されたたん白質は、一旦、胃や腸で分解されて「ペプチド」というかたちで体内に吸収され、吸収されたペプチドはさらにアミノ酸に分解され、それから再度たん白質に合成されて様々な細胞を形成するものとなります。これは、食物摂取時のたん白質では大きすぎて吸収されない、という問題を解決するための体内メカニズムです。では、アミノ酸状態のものを直接摂取するのが最も効率的かといえば、必ずしもそうではありません。アミノ酸のままだと、吸収は1個単位となり、一定の時間なら、数個のアミノ酸が結合しているペプチドのほうが数多くのアミノ酸を体内に吸収させることができます。それだけ、たん白質を早く合成できるというわけです。



筋力アップ・スタミナ向上・疲労回復に効果的な働き

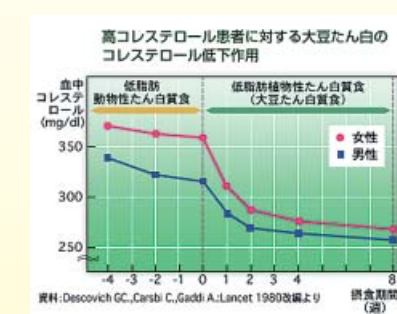
一般にペプチドが注目されるようになったのは、スポーツ選手が筋力アップやスタミナ向上、疲労回復を目的に摂取しはじめたのがきっかけです。筋肉は、激しい運動で負担がかかると細い筋繊維が数多く切れます。しかし切れた筋繊維は脳の指令によって修復され、疲労の回復は修復作業の完了を意味しています。修復された筋肉は、以前より強くつくりあげられる仕組みになっており、筋力アップやスタミナアップに結びついていきます。

その修復作業に必要なのが、筋肉の素になるたん白質であり、より短時間で筋力を修復するために必要なアミノ酸を供給できるようにする役目を果たするのがペプチドです。また、長時間の運動は、体全体のエネルギー補給のために筋肉内のアミノ酸を消費させますが、事前にあるいは途中でペプチドを摂取することにより、筋肉にタイミングよく届け、スタミナの維持、疲労回復に効果的に働きます。



基礎代謝を高め脂肪を燃焼する大豆たん白のパワー

メタボリック症候群に代表されるように、健康を考える上で体付いた脂肪をいかに減らすかが大きな課題となっています。脂肪を燃焼させるために運動をし、摂取カロリーを減らすために食事制限をする人が増えています。しかし過度の運動は大量に体内のアミノ酸を消費し、過度の食事制限は栄養不足にもなって筋肉からアミノ酸が流出します。いずれも体のバランスを著しく損ない、体力低下や老化促進につながります。適度な運動とバランスの良い食事を基本に、基礎代謝を高めていくことが肝心です。基礎代謝とは、呼吸や内臓の動きなど生命を維持するために必要な消費エネルギーのことで、16歳をピークに減少し、老化の一要因とされています。



大豆ペプチドは、効率的にアミノ酸を摂取させる一方で、体脂肪を燃焼させ、さらには研究により基礎代謝を高めることも明らかになってきました。





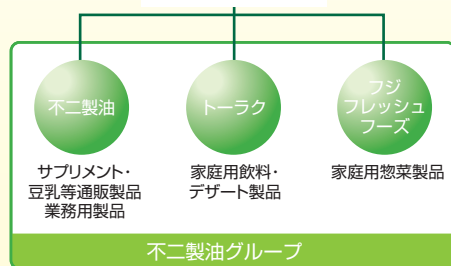
美容と健康維持に役立つ大豆の栄養素を 直接消費者へお届けする通信販売「ソヤファームクラブ」。

栄養価の高い大豆素材を使用した健康補助食品を通して、大豆本来のチカラを消費者の皆様へ直接お届けしたい——そんな想いから1997年にスタートした通信販売「ソヤファームクラブ」は、今年で10年目を迎えました。

その間、ニーズの変化に合わせて新製品を開発し、根強い人気のヒット商品も生まれています。

不二製油グループの大豆製品ブランド「ソヤファーム」

通信販売「ソヤファームクラブ」のソヤファームは、不二製油グループが大豆を素材として製品化した豆乳や惣菜、健康食品のすべてを統一するブランド名です。通信販売の製品はもとより、コンビニエンスストアやスーパーマーケットで展開している製品にもロゴマークが付いています。このブランドは1986年に立ち上げ、製品は当社とグループ企業であるトーラク株式会社、フジフレッシュフーズ株式会社の3社で製造・販売をおこなっています。PR活動も積極的に実施しており、プロ野球公式戦の冠ゲームへの協賛や新聞・雑誌への広告などを展開。阪神甲子園球場内にも屋外看板を設置しています。



製品各々の機能性を明確にしてリピーターを促進



ソヤファームクラブの主力製品は、大豆の有効成分を配合した健康補助食品です。より多くの人に手軽に食してもらうため、ドリンクや粉末飲料、タブレットタイプをそろえています。さらに製品ごとの機能を明確にしてニ

ーズへのフィット感を高め、リピーターの促進をはかっています。また製品は、それぞれの機能性に応じたイメージターゲットを設定しており、パッケージデザインも、サプリメント系は女性的で可愛らしく、調製豆乳はぬくもりのあるファミリーイメージ、大豆ペプチドのスポーツ飲料は力強くといい具合で展開しています。ソヤファームクラブで販売している製品はいずれも通信販売以外では手に入らないものです。コンビニエンスストアやスーパーマーケットで販売している他のソヤファーム製品と差別化をはかり、機能性を強調することで各々の商品価値を高めています。加えて「機能飲料・サプリメントはソヤファームクラブ」といった認知向上もはかっています。

インターネットで購入できる ソヤファームクラブ通信販売商品



インフラ10

女性の健康をサポートする注目の成分「イソフラボン」を配合したタブレット。ミネラルも含み、中高年の女性におすすめです。



コレステ10

コレステロールにこだわった健康食品で、大豆たん白質の特定成分を濃縮した「大豆たん白酵素分解物」(特許取得済)を配合。



ハイ!調製豆乳(特定保健用食品)

LDL(悪玉)コレステロールを改善する効果があり、のみ味スッキリとおいしい豆乳です。



アミノミーナ

大豆ペプチド由来のアミノ酸を1包当たり3000mg配合した美容健康飲料です。9種類のビタミン、セラミド、乳酸菌など、女性の美と健康を支えます。



大豆胚芽茶

イソフラボンをたっぷり含んだ大豆胚芽からつくった健康茶。ハト麦や発芽大麦などを加え香ばしく仕上げています。



黒大豆&ブルーベリー

黒大豆とブルーベリーから抽出したアントシアニンを配合したタブレット。ベータカロチンやイソフラボンもプラスしています。



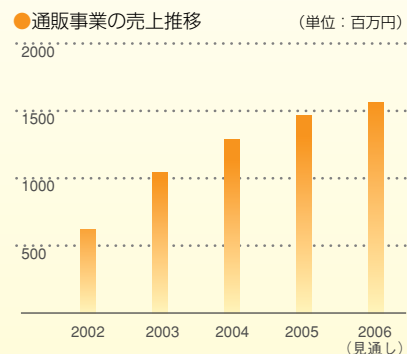
野菜の時間ですよ

15種類の野菜に発酵野菜・大豆胚芽を加えた新タイプのタブレット。野菜が苦手な方にも手軽に摂取していただけます。



大豆のギャバだ

子供から大人まで、イライラを感じたときにおすすめの製品です。ギャバはリラックス成分として注目されているアミノ酸の1種です。



SOYAFARM 「ソヤファームクラブ」ホームページ
大豆で、いいこと。

<http://www.soyafarm.com>

通信販売用商品の一覧を掲載し、購入ができる専用ホームページです。また大豆の効用に関する基礎知識はもちろん、健康情報や豆乳を使ったメニュー提案といった情報も満載。グラフや図を多用した、わかりやすい内容となっています。

平成19年3月期連結「上期業績」と「通期見通し」

連結決算 上期 (平成18年4月1日～平成18年9月30日)

油脂事業

- 海外を中心にチョコレート用油脂などの高付加価値製品が大幅に伸長。
- 国内では競争激化によりフライ用油脂の販売数量が減少。

製菓・製パン素材事業

- 素材チョコレートが新製品開発と提案営業により大幅に伸長。
- クリーム類は新製品の拡販により販売数量が増加。
- マーガリン・ショートニング類、素材チーズ・フィリング類は市場停滞もあり苦戦。

大豆たん白事業

- 大豆たん白食品は、販売増、コストダウンにより収益は改善。
- 豆乳は市場停滞と大豆イソフラボンに関する報道の影響で大幅減収減益。

単位：億円

	平成18年度上期 (平成18年4月1日～平成18年9月30日)			平成18年度通期見通し (平成18年4月1日～平成19年3月31日)		
	平成18年度上期	ご参考		平成18年度通期見通し	ご参考	
		前年同期 平成17年4月1日～平成17年9月30日	対前年同期増減率		前期 平成17年4月1日～平成18年3月31日	対前期増減率
売上高	883	827	6.7%	1,853	1,751	5.8%
営業利益	30	39	△22.9%	84	92	△9.5%
経常利益	27	37	△27.9%	74	89	△17.3%
中間(当期)純利益	13	17	△24.4%	38	43	△11.2%

(注) 記載金額は、億円未満を切り捨てて表示しております。

下期の取組み

油脂事業

- スペシャルティファットの拡販・コストダウンの推進による収益性の向上。
- 10月稼働の千葉工場の稼働率向上。

製菓・製パン素材事業

- 素材チョコレートの更なる拡販。
- おいしさ維持機能シリーズの拡販。(チョコレート・クリーム・マーガリン)
- 5月稼働の千葉工場シートマーガリンの拡販。

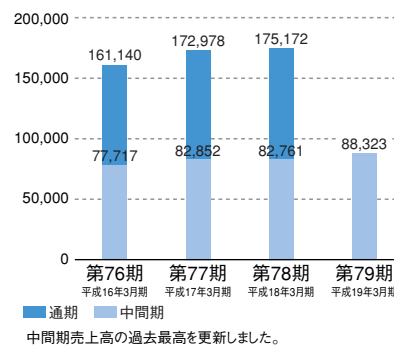
大豆たん白事業

- 豆乳は新製品発売と効果的なマーケティング戦略実施。
- 大豆たん白食品は上期に引続き収益改善。
- 食品機能剤(大豆ペプチド・水溶性大豆多糖類)は新市場開拓による拡販。

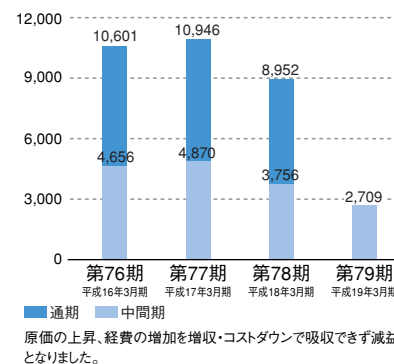
将来見通しに関する注意事項

上記に記載した予想数値は、現時点で入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、多分に不確定な要素を含んでおります。実際の業績等は、業況の変化等により上記予想数値と異なる場合があります。

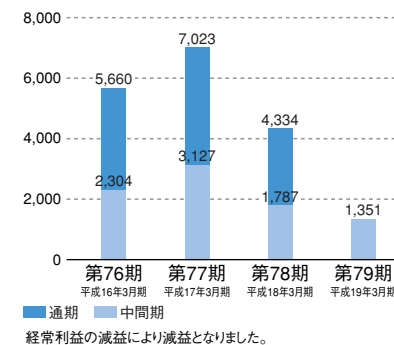
売上高(百万円)



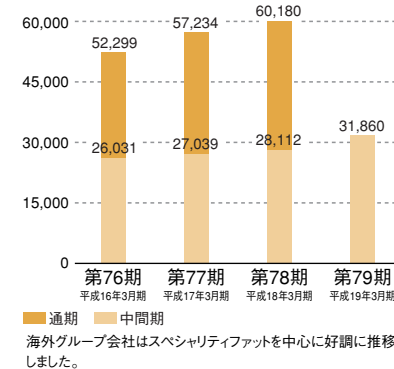
経常利益(百万円)



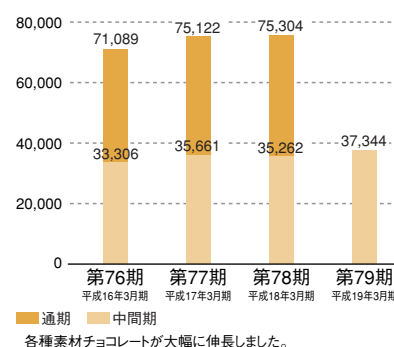
中間(当期)純利益(百万円)



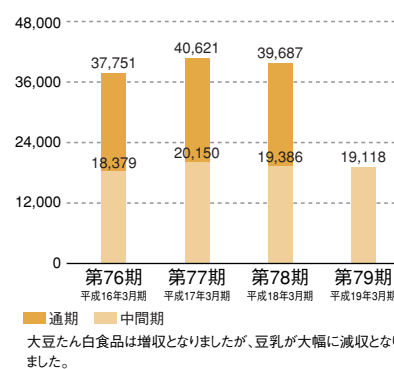
事業別売上高(百万円) (油脂事業)



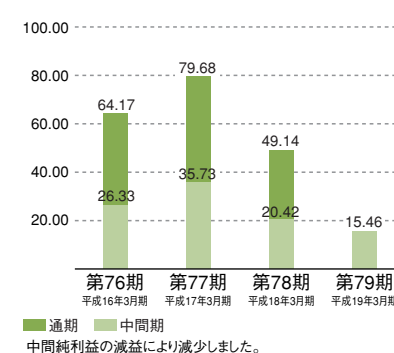
(製菓・製パン素材事業)



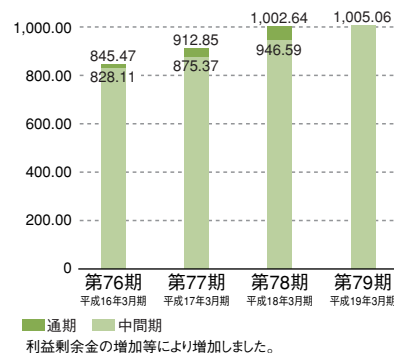
(大豆たん白事業)



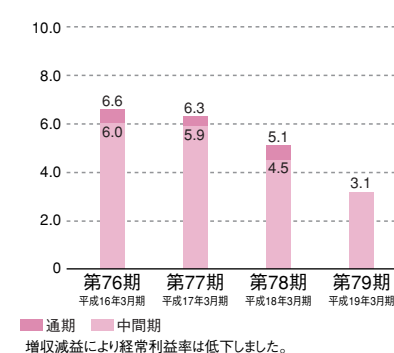
1株当たり中間(当期)純利益(円)



1株当たり純資産(円)



売上高経常利益率(%)



連結貸借対照表

(単位：百万円)

科目	当中間期末 (H18.9.30現在)	前中間期末 (H17.9.30現在)	前期末 (H18.3.31現在)
資産の部			
流動資産	67,144	59,899	60,458
現金及び預金	6,247	3,615	4,324
受取手形及び売掛金	32,862	29,700	29,538
有価証券	152	274	274
たな卸資産	23,926	22,282	23,050
その他	3,955	4,026	3,271
固定資産	112,894	104,243	111,478
1 有形固定資産	95,792	90,054	93,712
建物及び構築物	34,963	31,308	33,204
機械装置及び運搬具	41,199	38,368	41,357
土地	15,209	14,704	15,022
建設仮勘定	2,756	4,051	2,369
その他	1,663	1,620	1,759
無形固定資産	1,157	949	1,164
投資その他の資産	15,945	13,239	16,601
投資有価証券	12,444	10,558	13,307
その他	3,501	2,680	3,293
繰延資産	—	5	—
資産合計	180,039	164,148	171,936

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

科目	当中間期末 (H18.9.30現在)	前中間期末 (H17.9.30現在)	前期末 (H18.3.31現在)
負債の部			
流動負債	56,087	46,316	45,748
支払手形及び買掛金	16,616	14,485	13,115
短期借入金	24,857	21,914	22,909
コマーシャル・ペーパー	3,000	—	—
一年内償還予定社債	20	20	20
未払法人税等	1,340	2,011	2,300
賞与引当金	1,709	1,699	1,414
その他	8,542	6,184	5,989
固定負債	32,599	31,254	34,372
社債	10,150	10,170	10,160
長期借入金	15,976	15,392	17,309
退職給付引当金	1,953	2,347	2,213
役員退職慰労引当金	300	303	337
その他	4,218	3,039	4,350
負債合計	88,687	77,570	80,121
少数株主持分			
少数株主持分	—	3,723	4,022
資本の部			
資本金	—	13,208	13,208
資本剰余金	—	18,324	18,324
利益剰余金	—	52,052	53,942
その他有価証券評価差額金	—	3,287	4,544
為替換算調整勘定	—	△3,973	△2,181
自己株式	—	△44	△45
資本合計	—	82,854	87,793
負債、少数株主持分及び資本合計	—	164,148	171,936
2 純資産の部	91,352	—	—
株主資本	85,402	—	—
資本金	13,208	—	—
資本剰余金	18,324	—	—
利益剰余金	54,604	—	—
自己株式	△735	—	—
評価・換算差額等	1,932	—	—
その他有価証券評価差額金	4,044	—	—
繰延ヘッジ損益	30	—	—
為替換算調整勘定	△2,142	—	—
少数株主持分	4,017	—	—
純資産合計	91,352	—	—
負債純資産合計	180,039	—	—

2

連結損益計算書

(単位：百万円)

科目	当中間期 (H18.4.1から H18.9.30まで)	前中間期 (H17.4.1から H17.9.30まで)	前期 (H17.4.1から H18.3.31まで)
3 売上高	88,323	82,761	175,172
売上原価	70,513	64,505	137,068
売上総利益	17,810	18,256	38,103
販売費及び一般管理費	14,726	14,257	28,826
営業利益	3,083	3,999	9,277
営業外収益	379	443	814
営業外費用	754	687	1,139
経常利益	2,709	3,756	8,952
特別損失	243	244	547
税金等調整前中間(当期)純利益	2,465	3,511	8,404
法人税、住民税及び事業税	1,001	1,588	3,358
法人税等調整額	52	82	537
少数株主利益	59	53	174
中間(当期)純利益	1,351	1,787	4,334

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

連結株主資本等変動計算書

当中間期 (H18.4.1からH18.9.30まで)

科目	株主資本					評価・換算差額等				少数株主 持分	純資産 合計
	資本金	資本 剰余金	利益 剰余金	自己株式	株主資本 合計	その他有価証券 評価差額金	繰延ヘッジ 損益	為替換算 調整勘定	評価・換算 差額等合計		
平成18年3月31日残高(百万円)	13,208	18,324	53,942	△45	85,429	4,544	—	△2,181	2,363	4,022	91,815
中間連結会計期間中の変動額	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
剰余金の配当(注2.)	—	—	△656	—	△656	—	—	—	—	—	△656
役員賞与(注2.)	—	—	△33	—	△33	—	—	—	—	—	△33
中間純利益	—	—	1,351	—	1,351	—	—	—	—	—	1,351
自己株式の取得	—	—	—	△690	△690	—	—	—	—	—	△690
株主資本以外の項目の中間連結会計期間中の変動額(純額)	—	—	—	—	—	△500	30	38	△430	△4	△435
中間連結会計期間中の変動額合計(百万円)	—	—	662	△690	△27	△500	30	38	△430	△4	△463
平成18年9月30日残高(百万円)	13,208	18,324	54,604	△735	85,402	4,044	30	△2,142	1,932	4,017	91,352

(注) 1.記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。
2.平成18年6月の定時株主総会における利益処分項目であります。

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

科目	当中間期 (H18.4.1から H18.9.30まで)	前中間期 (H17.4.1から H17.9.30まで)	前期 (H17.4.1から H18.3.31まで)
営業活動によるキャッシュ・フロー	4,386	4,032	11,779
投資活動によるキャッシュ・フロー	△4,778	△6,650	△14,967
財務活動によるキャッシュ・フロー	2,297	2,094	3,148
現金及び現金同等物に係る換算差額	17	65	288
現金及び現金同等物の増減額	1,923	△458	249
現金及び現金同等物の期首残高	4,305	4,055	4,055
現金及び現金同等物の中間期末(期末)残高	6,228	3,596	4,305

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

POINT 1 有形固定資産

主に千葉工場建設による投資等による増加であります。

POINT 2 純資産の部

当中間期より「貸借対照表の純資産の部の表示に関する会計基準」及び「貸借対照表の純資産の部の表示に関する会計基準等の適用指針」を適用して開示しております。

POINT 3 売上高

中間期売上高の過去最高を更新しました。

貸借対照表

(単位:百万円)

科目	当中間期末 (H18.9.30現在)	前中間期末 (H17.9.30現在)	前期末 (H18.3.31現在)
資産の部			
流動資産	40,206	36,421	36,148
固定資産	103,598	99,061	101,615
有形固定資産	60,327	56,631	57,523
無形固定資産	682	475	675
投資その他の資産	42,588	41,954	43,416
資産合計	143,804	135,482	137,763
負債の部			
流動負債	31,204	25,230	24,711
固定負債	24,621	25,580	24,967
負債合計	55,825	50,810	49,679
資本の部			
資本金	—	13,208	13,208
資本剰余金	—	18,324	18,324
利益剰余金	—	49,946	52,137
株式等評価差額金	—	3,237	4,459
自己株式	—	△44	△45
資本合計	—	84,672	88,084
負債及び資本合計	—	135,482	137,763
純資産の部			
株主資本	83,967	—	—
資本金	13,208	—	—
資本剰余金	18,324	—	—
利益剰余金	53,169	—	—
自己株式	△735	—	—
評価・換算差額等	4,011	—	—
純資産合計	87,978	—	—
負債純資産合計	143,804	—	—

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

損益計算書

(単位:百万円)

科目	当中間期 (H18.4.1から H18.9.30まで)	前中間期 (H17.4.1から H17.9.30まで)	前期 (H17.4.1から H18.3.31まで)
経常損益の部			
営業収益	52,644	51,182	107,757
営業費用	49,989	47,718	99,802
営業利益	2,654	3,464	7,954
営業外収益	687	829	1,376
営業外費用	458	512	871
経常利益	2,884	3,781	8,460
特別損益の部			
特別損失	231	241	443
税引前中間(当期)純利益	2,652	3,539	8,016
法人税、住民税及び事業税	849	1,351	2,867
法人税等調整額	80	△24	89
中間(当期)純利益	1,722	2,212	5,060
前期繰越利益	—	11,206	11,206
中間配当額	—	—	656
中間(当期)未処分利益	—	13,419	15,611

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

株主資本等変動計算書

当中間期 (H18.4.1からH18.9.30まで)

科目	株主資本								評価・換算差額等			純資産合計			
	資本金	資本剰余金		利益剰余金				自己株式	株主資本合計	その他有価証券評価差額金	繰延ヘッジ損益		評価・換算差額等合計		
		資本準備金	資本剰余金合計	利益準備金	買換資産積立金	配当準備積立金	別途積立金							繰越利益剰余金	利益剰余金合計
平成18年3月31日残高(百万円)	13,208	18,324	18,324	2,017	258	2,250	32,000	15,611	52,137	△45	83,624	4,459	—	4,459	88,084
中間会計期間中の変動額															
剰余金の配当(注2.)									△656		△656				△656
役員賞与(注2.)									△33		△33				△33
中間純利益									1,722		1,722				1,722
自己株式の取得										△690	△690				△690
株主資本以外の項目の中間会計期間中の変動額(純額)												△479	30	△448	△448
中間会計期間中の変動額合計(百万円)	—	—	—	—	—	—	—	1,032	1,032	△690	342	△479	30	△448	△106
平成18年9月30日残高(百万円)	13,208	18,324	18,324	2,017	258	2,250	32,000	16,643	53,169	△735	83,967	3,980	30	4,011	87,978

(注) 1.記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。
2.平成18年6月の定時株主総会における利益処分項目であります。

株式の状況

(平成18年9月30日現在)

発行可能株式総数 357,324,000株
発行済株式の総数 87,569,383株
株主数 21,683名
1人当たりの平均所有株数 4,039株

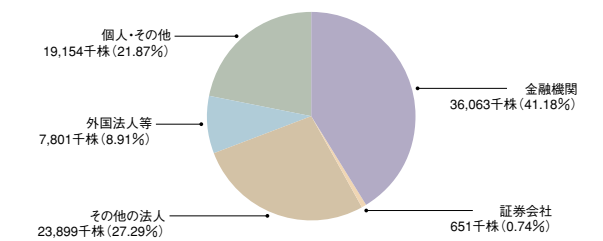
大株主

(平成18年9月30日現在)

株主名	持株数(千株)	出資比率(%)
伊藤忠商事株式会社	16,409	18.7
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	5,910	6.7
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	4,367	5.0
野村信託銀行株式会社(信託口)	3,127	3.6
日本生命保険相互会社	2,845	3.2
東京海上日動火災保険株式会社	2,828	3.2
株式会社三井住友銀行	1,875	2.1

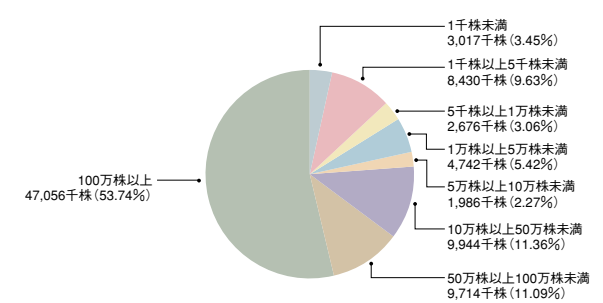
所有者別分布状況

(平成18年9月30日現在)



所有株数別分布状況

(平成18年9月30日現在)



株価の推移



会社概要

(平成18年9月30日現在)

創 立	1950年(昭和25年)10月
資 本 金	13,208百万円
代 表 者 名	代表取締役社長 浅原 和人
連 結 売 上 高	88,323百万円
連 結 経 常 利 益	2,709百万円
連 結 総 資 産	180,039百万円
単 体 売 上 高	52,644百万円
単 体 経 常 利 益	2,884百万円
単 体 総 資 産	143,804百万円
全グループ従業員数	3,055名
不二製油従業員数	1,079名

役員

(平成18年9月30日現在)

代表取締役社長	浅原 和人
専務取締役	二宮 幸博
専務取締役	小幡 静雄
常務取締役	森 弘之
常務取締役	海老原 善隆
常務取締役	片山 務
常務取締役	河部 博国
常務取締役	寺嶋 正彦
常務取締役	岡本 和三
取締役	岩朝 央
取締役	高木 茂
取締役	寺西 進
取締役	清水 洋史
取締役	山中 敏正
取締役	田中 茂治
常勤監査役	山口 正之
常勤監査役	南 廣次
監査役	青木 芳久
監査役	栢 沼 康夫

主要海外グループ会社

(平成18年9月30日現在)

フジオイル(シンガポール)
ウッドランドサニーフーズ
フジサニーフーズ
パルマジュエディブルオイル
フジベジタブルオイル
ソヤファームUSA
フジオイルヨーロッパ
ニューレイテエディブルオイル
フレイアパディインドタマ
不二製油(張家港)有限公司
吉林不二蛋白有限公司
山東龍藤不二食品有限公司
上海旭洋綠色食品有限公司
天津不二蛋白有限公司

主要国内グループ会社

(平成18年9月30日現在)

トーラク株式会社
フジフレッシュフーズ株式会社
フジプロテインテクノロジー株式会社
ケイ・ピー食品株式会社
ワルツファンシー株式会社
不二バター株式会社
株式会社フクシヨク
株式会社合志商事
今川株式会社
株式会社エフアンドエフ
株式会社阪南タンクターミナル
千葉ベグオイルタンクターミナル株式会社

TOPICS

「千葉工場」稼働

千葉市美浜区新港の食品コンビナートにて建設を行っていた千葉工場は、5月よりマーガリン工場が稼働し、続いて10月より油脂精製工場も稼働しました。この千葉工場の誕生により、関東・関西エリアの二大生産拠点・供給体制が整いました。これにより、よりフレッシュな製品の供給、顧客への迅速な対応、物流面での効率化を推進できる体制となりました。



欧州拠点 業務用チョコレート工場

欧州の生産拠点であるグループ会社のフジオイルヨーロッパにて、業務用チョコレート工場を本年11月より稼働開始しました。チョコレートの本場の欧州にて、当社グループが培ってきた経験を活かし、高品質の業務用チョコレートを供給してまいります。



展示会に出展

10月4日～5日に社団法人日本外食品卸協会主催の「外食産業フェア2006」に出展しました。10月4日～6日にCMPジャパン(株)主催の「食品開発展2006」が東京ビッグサイトで開催され、当社グループが出展しました。

1. 「ソヤファームブランド」の訴求、2. 「不二製油グループの大豆素材」、3. 「大豆のことなら不二製油グループ」の認識の定着を目的に、展示・試飲を行い、来場された多くの方に興味を持っていただきました。

10月10日～12日に社団法人東京都洋菓子協会主催の「2006ジャパン・ケーキ・ショー東京」に「おいしさ維持機能」シリーズ製品と「チョコレート」の2コーナーに分けて出展しました。



株式のご案内

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月開催
基準日	定時株主総会 毎年3月31日 期末配当金 毎年3月31日 中間配当金 毎年9月30日 そのほか必要があるときは、あらかじめ公告して定めた日
株主名簿管理人	大阪市中央区北浜四丁目5番33号 住友信託銀行株式会社
同事務取扱場所	大阪市中央区北浜四丁目5番33号 住友信託銀行株式会社 証券代行部
〈郵便物送付先〉	〒183-8701 東京都府中市日鋼町1番10 住友信託銀行株式会社 証券代行部
〈電話照会先〉	[住所変更等用紙のご請求] ☎0120-175-417 [その他のご照会] ☎0120-176-417
〈インターネットホームページURL〉	http://www.sumitomotrust.co.jp/STA/retail/service/daiko/index.html
同取次所	住友信託銀行株式会社全国各支店
単元株式数	100株
公告掲載新聞	日本経済新聞 ※当社の貸借対照表、損益計算書はEDINET（証券取引法に基づく有価証券報告書等の開示書類に関する電子開示システム）にて開示しております。
上場証券取引所	東京・大阪



FUJI OIL CO., LTD.

<http://www.fujioil.co.jp>

r2100

古紙パルプ配合率100%再生紙を使用しています。



本紙は再生紙（古紙パルプ100%）、大豆油インキを使用しています。